

インクルーシブ・テーマトーク 2023年度活動報告・2024年度活動計画

2024年 6月27日

岩崎昭浩

● 開催実績

「第38回 CSUN」にみる インクルーシブデザインの最新動向と 日本の課題

御登壇者
関根 千佳 様

開催日
2022年7月20日（木曜日）
16:00～18:30

開催形態
ZOOMオンライン

応募数 会員 64名 非会員 28名



「SOLIT!を作った理由」 必要な人に、必要なものを、 必要な分だけ作り出す

御登壇者
田中 美咲様

開催日
2024年1月29日（月曜日）
19:00～20:00

開催形態
ZOOMオンライン

応募数 会員 38名 非会員 6名



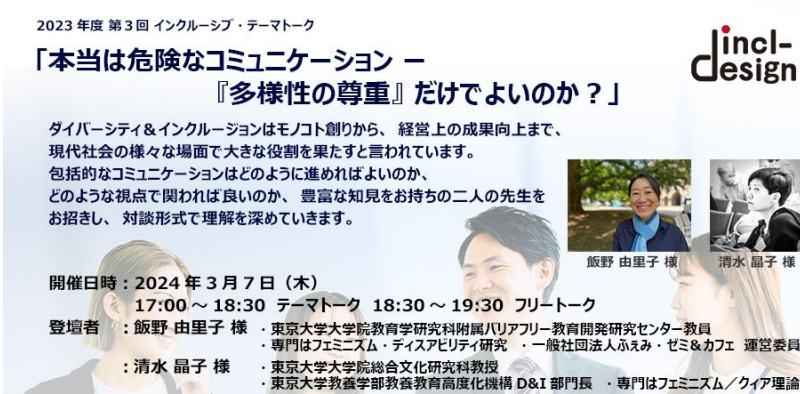
「本当は危険なコミュニケーション – 『多様性の尊重』だけでよいのか？」

御登壇者
飯野 由里子 様 清水 晶子 様

開催日
2024年3月7日（木曜日）
17:00～19:30

開催形態
ZOOMオンライン

応募者 会員 54名 非会員 24名



● 開催実績

「第38回 CSUN」にみる
インクルーシブデザインの最新動向と
日本の課題

制度、サービス、技術に関する
最新動向の把握

世界動向と日本の立ち位置の理解

開催形態
ZOOMオンライン

応募数 会員 64名 非会員 28名



「SOLIT!を作った理由」
必要な人に、必要なものを、
必要な分だけ作り出す

先進的な取り組みと
その背景の理解

開催形態
ZOOMオンライン

応募数 会員 38名 非会員 6名

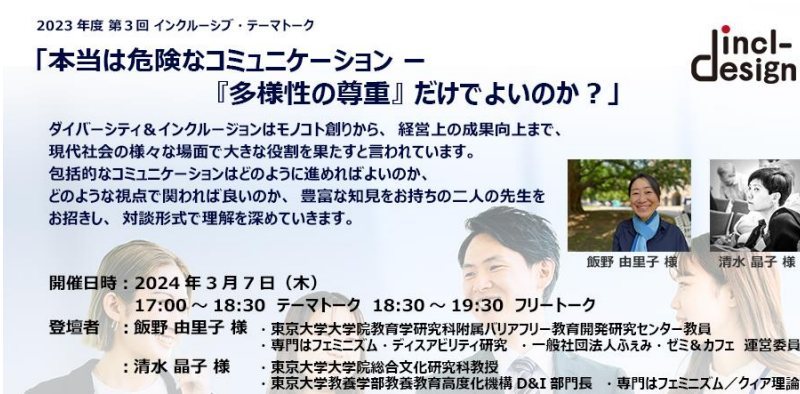


「本当は危険なコミュニケーション –
『多様性の尊重』だけでよいのか？」

インクルーシブデザインにおける
視野の拡大

開催形態
ZOOMオンライン

応募者 会員 54名 非会員 24名



● 開催実績

「第38回 CSUN」にみる インクルーシブデザインの最新動向と 日本の課題

御登壇者
関根 千佳 様

開催日
2022年7月20日（木曜日）
16:00～18:30

開催形態
ZOOMオンライン

応募数 会員 64名 非会員 28名



連邦政府では職員の7%から15%も障害者が雇用されている
米国の省庁からは、多数のCAO（Chief Accessibility Officer）が参加し、各省庁の取り組みを紹介。この傾向は、企業も同様。

欧米では、インクルーシブな教育と雇用が連携。サービスも、ITも、全てがUDでなくてはならないという方針。

障害のある人が、同等に教育を受け、就労し、活躍できる社会の実現につながる。

「アクセシビリティは産業界と政府の双方にメリットがあるWin-Winのアプローチ」

- ①連邦政府がICTを購入するためのドアを開く
- ②企業がより広い顧客層へリーチできるようになる
- ③顧客体験（Customer Experience）を改善できる

「ETechM2」（Educational Technology Media and Materials Program）

- ①テクノロジーの開発、プロトタイピング、利活用の推進
- ②教室内での教育効果を高めるようデザインされた教育活動の支援
- ③教室内での使用に適したキャプションやビデオ解説のサポートの提供
- ④障害のある子供たちにアクセシブルな教材のタイムリーな提供

● 開催実績

「SOLIT!を作った理由」

必要な人に、必要なものを、
必要な分だけ作り出す

御登壇者

田中 美咲様

開催日

2024年 1月29日（月曜日）
19:00～20:00

開催形態

ZOOMオンライン

応募数 会員 38名 非会員 6名



事業会社 SOLIT株式会社

企業ミッション：「多様な人も、動植物も、地球環境も、誰もどれも取り残さない社会を実現するための『経済圏』の実現」

- ①インクルーシブファッションブランド「SOLIT!」の展開
- ②国内外の類似事業者と連携したD&I研究・調査
- ③インクルーシブデザイン伴走支援

ファッションブランド「SOLIT!」 All-inclusive fashion serviceの提供
障がい、セクシュアリティ、信仰に関係無く、誰でも自由に自分の好みや体型にあわせ、部位ごとにサイズ・仕様・丈を選ぶことが可能。
1,600通り以上のカスタマイズが可能。

課題を抱える当事者へのヒアリング・調査、プロトタイプング

例) 車いす利用者：腕まくりを前提とした袖口リブ

例) 指の麻痺、視覚障がい：脱着が簡単にできるマグネットボタン

企画段階から当事者とチームになって企画開発を実施。

工場では依頼があってから必要な分だけを製造するので倉庫、ロス無し。

利用者とはLINEや店頭で継続的な関係を構築し、知見を得て新たな解決策へ。

● 開催実績

「本当は危険なコミュニケーション – 『多様性の尊重』だけでよいのか？」

御登壇者

飯野 由里子 様 清水 晶子 様

開催日

2024年 3月 7日 (木曜日)
17:00~19:30

開催形態

ZOOMオンライン

応募者 会員 54名 非会員 24名

2023 年度 第3回 インクルーシブ・テーマトーク

「本当は危険なコミュニケーション – 『多様性の尊重』だけでよいのか？」

ダイバーシティ&インクルージョンはモノト創りから、経営上の成果向上まで、現代社会の様々な場面で大きな役割を果たすとされています。包括的なコミュニケーションはどのように進めればよいのか、どのような視点で関われば良いのか、豊富な知見をお持ちの二人の先生をお招きし、対談形式で理解を深めていきます。



飯野 由里子 様



清水 晶子 様

開催日時：2024年3月7日(木)

17:00~18:30 テーマトーク 18:30~19:30 フリートーク

登壇者：飯野 由里子 様 ・東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター教員
・専門はフェミニズム・ディスアビリティ研究 ・一般社団法人ふえみ・ゼミ&カフェ 運営委員

：清水 晶子 様 ・東京大学大学院総合文化研究科教授
・東京大学教養学部教養教育高度化機構 D&I 部門長 ・専門はフェミニズム/クィア理論

多様性を意識したコミュニケーションの実現には、マジョリティとマイノリティ、助ける側と助けられる側というような、今まで各人が持つ意識的な前提を見直すことが重要。

コミュニケーションをすることはそもそも危険なことであり、完全に安全なコミュニケーションは存在しない。

安全なコミュニケーションを進めるために、あらかじめマイノリティを見分けて、その場の問題にならないようにコミュニケーションを図りたいという意識がある。基準や規範を決めてコミュニケーションを行えば安全と言う考え方はかえって危険。

コミュニケーションは危険性を意識しながら行うもの。普段からのコミュニケーションのあり方や、考え方を変えていくこと、上手に致命的な失敗ではないすれ違いを重ねていくかが大事。

コミュニケーションにおいて正しいか正しくないかということを強く意識することではなく、間違いを積み重ねて、コミュニケーションを改善していくという考え方が必要。お互いに正解を求めず、間違いを積みながら、改善していこうというメッセージを発信するような環境作りもこれからの課題。

基本方針

テーマトーク

- ・年4回の開催を予定（1回追加）
- ・会員のご意見を収集し、それを参考にできるかぎり会員の希望に沿ったテーマ設定を検討
- ・製品・サービスの開発に関わるテーマ、および、新たな視野・視点を獲得するテーマで構成

会員向けセミナー

- ・ご要望に合わせて企画・実施

実施時期・概要

テーマトーク

- ・第1回 6月 CSUNレポート 関根様 2024年6月11日（火）16時～ 実施済み
- ・第2回 9月～10月 開催予定 製品・サービス開発に関わるテーマ
- ・第3回 12月 開催予定 製品・サービス開発に関わるテーマ
- ・第4回 2025年 2～3月 開催予定 新たな視野・視点を獲得するテーマ（例：発達障害の理解等）

- 開催予定（講演者の都合により、24年度に実施予定）

『ontenna』から『エキマトペ』へ ソーシャル・イントラプレナーとして未来を変える（仮題）

御登壇者：本多 達也 様

- ・富士通株式会社 コンバーシングテクノロジー研究所 ソーシャルテクノロジー社会実装推進室
- ・Antennaプロジェクトリーダー

開催日：2024年 7月19日

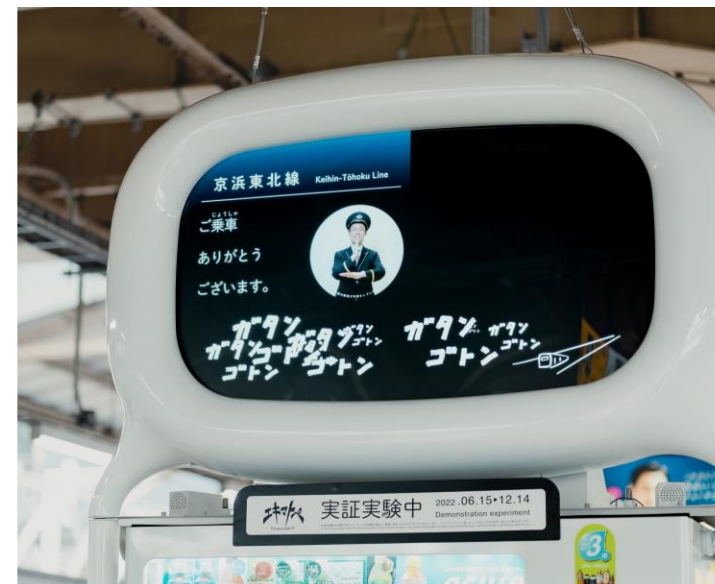
開催形態：対面



本多 達也 様



ontenna



エキマトペ

2024年度も、要望に応じ対応の予定。



特定非営利活動法人
インクルーシブデザインネットワー
ク